

## 卷頭言

「分かりやすい授業」から  
「生徒がもっと学びたくなる授業」へ

県教育庁教育振興部指導課 指導主事 鈴木 洋松

高校訪問で授業参観をする機会が増えた。教室の後方から、授業を受けている生徒たちと同じ目線で、教壇で熱心に授業をしている先生の姿を見ることになる。私が訪問した多くの学校では、授業態度は大変落ち着いており、生徒は熱心にノートを取り、演習では黙々と問題に取り組んでいた。でも私は、いつも何か物足りなさを感じるのである。そんな時は教室の前方へ移動し、授業をしている先生ではなく、授業を受けている生徒たちの表情を観察することになっている。先生の説明にうなずきながらノートをとっている生徒もいる反面、何か疲れた表情を浮かべ、先生の説明が理解できないまま、おとなしく座っているだけの生徒が多くいるように感じてしまうのは、私の思い過ごしであろうか。「本校の生徒は授業態度は本当に良いのですが、実際にテストを行うと、出来が悪いのです」こんなお話を伺うことも多い。

改訂された高等学校学習指導要領が、平成25年度入学者から年次進んで、全ての教科・科目等について全面実施となり、教育課程の編成も一段落したところであろう。

今回の改訂のポイントの中から、数学科における“授業改善”という視点から、『言語活動の充実』を取り上げてみたい。言語活動は各教科、科目において、つまり学校全体として取組を推進していくことが重要である。また、思考力・判断力・表現力を育む観点から、きちんとしたねらいを持って言語活動を実施することにより、質的な高まりがもたらされる。効果的に行われるために、以下に示す3点を、実施にあたり意識していただきたい。

- ① 学習内容に対する興味・関心をとらえた活動であるか。
- ② 集団の雰囲気が醸成されているか。
- ③ 教員の指導技術の向上が図られているか。

言語活動は、ただやればよい、のではなく、ねらいに合った言語活動であるかということがまず重要で、学習集団がお互いに尊重し合い、人の話をきちんと聞く態度が育まれていることも必要である。また数学の授業では、生徒に発言を求める時に、解答だけを答えさせることが多くなってしまいが、発問の仕方に工夫を凝らし、「数学的な見方や考え方を引き出す発問」、「板書させた問題の解答の説明」、「授業の振り返りを行い学習内容のポイント等をまとめさせる」など、生徒の思考を促すような発問ができているか、そしてどの場面で評価すればよいか等、日々の授業における見直しが大切である。「高校の先生は、自分で発問して自分で答えている」と言われることもあるようだが、ぜひ生徒からの発言を引き出せるような授業改善に教科を挙げて取り組んでいただき、数学的活動も含めた主体的な学習の展開と併せ、数学を学ぶ意義を生徒が実感できる場面を多く作り出していただきたい。

終わりに、数学部会の事務局及び会員の皆様による、数学教育の改善・充実に向けた熱意ある取組に感謝するとともに、数学部会誌「 $\alpha - \omega$ 」が一層充実・発展し、今後とも多くの先生方の研修の一助となり、生徒がもっと学びたくなる授業の実践に生かされることを期待する。